

21 世紀における公共図書館の次元 ーニューヨーク公共図書館の革新プロジェクトを対象とした質的内容分析ー

山岸 素子

21 世紀現在、国際社会において情報技術の進展や政治的な不安定さによる地域コミュニティの分断など、人々を取り巻く環境が劇的に変化している。特に社会的分断の大きいアメリカにおいて、1895 年に設立されたニューヨーク公共図書館は、88 の分館と 4 つの研究図書館からなるアメリカを代表する公共図書館であり、現在大規模なリノベーションプロジェクトが行われている。

本研究では、ニューヨーク公共図書館の革新プロジェクトの資料を対象にその内容を分析することで、21 世紀における公共図書館の次元を解明することを目的とする。本研究で解明された先進的なニューヨーク公共図書館の事例に基づいて、日本の公共図書館界の今後の発展と学術界における 21 世紀型図書館のリノベーションの基盤の解明に貢献することができる。

研究方法は、2015 年から 2020 年のリノベーションプロジェクト資料を収集し、分析対象資料 29 件に対して MAXQDA Analytics Pro を用いた質的内容分析を行った。より詳細な内容分析を行うためにシングルコーディングの手法を採用し、一定期間を空けたうえで二回にわたって計 1,540 件のコードを付与した。その後、図書館情報学の専門家との議論を経てコードリストを確定し、類似した要素を集約することでニューヨーク公共図書館を構成する 7 つの次元（「コミュニティ」「生涯学習」「研究」「コレクション」「建物」「人的資源」「理念」）を特定し、モデル化した。

7 つの次元のうち、最も中核的な次元が「コミュニティ」である。市民など五つのサブ次元を含み、リノベーションプロジェクトの基盤となっている。コミュニティが行う活動についての次元が、「生涯学習」と「研究」である。「生涯学習」は、「教育」「成人教育」「ビジネス」のサブ次元を持ち、研究とともに知的な創造性に関する要素である。「コレクション」は、それらを支える要素であり、「提供」「保存」「展示」のサブ次元を持つ。さらに、コレクションを納め、創造活動の場を提供するものが「建物」である。「歴史」と「近代化」のサブ次元を持ち、ニューヨーク公共図書館に固有の要素であるといえる。「知的拡張性」「継承性」「専門性」といったサブ次元からなる「人的資源」は、建物とともにニューヨーク公共図書館を支えている。最後に、全体を貫く次元が「理念」である。「不変性」「適応性」「象徴性」から構成され、将来にわたって市民社会の中核的な存在であることが示された。

本研究を通して、新しい時代を代表するニューヨーク公共図書館の構成要素を基礎に 21 世紀型図書館の次元を浮かび上がらせることに成功した。本研究に残された課題は、地域コミュニティとの密接な関わりを持つ分館に着目し、ニューヨーク公共図書館のシステム全体を明らかにすることである。

(指導教員 小泉公乃)